

喘息

女性 六十歳 会社経営

主訴 喘息発作、息苦しい、咳、痰

現病歴 1ヶ月前より喘息発作発現、クスリ服用するも効なし。咳、痰が出る。特に夜中がひどい。この1ヶ月で4kg減。ほかに朝起きると頭重、痛みあり。

所見 脈は「緊数」、腹（－）、火穴（－）。

処置 扁桃、自律神経調整、アレルギー、粘膜消炎各処置、ネーブル4点に皮内鍼。

経過 二回目（三日目）咳が軽減。

三回目（六日目）咳は出なくなったが、朝方、痰が出る。「緊数」。扁桃、自律神経、粘膜消炎各処置。

四回目（十日目）咳も止まり、頭痛もよい。よく寝れるようになった。痰も減る。

五回目（十三日目）体調よい。以後再発なし。

考察 発症して1ヶ月の喘息症状が10日程で殆ど治癒の状態になった。脈状にあまり変化はなかった。「緊数」は自律神経失調性、疼痛性それと体質からくるものを意味しているが、彼女の場合、仕事の多忙さからくる自律神経性のものと、生来神経過敏という体質的なものゆえに、脈状には変化をきたさなかったのかもしれない。

処置は扁桃、自律神経、アレルギー、粘膜消炎各処置と全てが総合的に効いたと思うが、特に粘膜消炎処置は直接的に気道粘膜に働きかけたと考える。喘息は気道が痙攣、収縮して起こるわけだが、脾経、肺経を使うこの処置で粘膜下のリンパ組織が活性化して、気道粘膜が拡張していったのではないかと考える。